第 393 号
平成31年３月１日(金)発行

下商物語（その四十七）

本校について書かれた書物について

本校教諭　林　俊行

終戦後、本校歴代校長先生の中で名物校長のお一人に「上田強」先生がおられます。先生は終戦後の混乱期に敏腕を振るわれて本校の歩むべき道を小柄な体格にも関らず実にエネルギッシュに校務に専念されました。昭和二十一年四月から昭和三十一年九月までの十年と半年に亘り校長として在職され、退職後は下関市の教育長になられました。

上田先生の書物は沢山ありますが、下関や本校に関するもので紹介しますと「関門地方経済調査」「下関産業誌」「下関商店街に関する調査」「下関経済年表」「北国航路と下関」「下関六十年史要」「下関郷土史文献目録」「下商七十年史」「母校下商の思い出」「千畳原史話」「続千畳史話」「下関経済史雑考」「千畳原史話拾遺」などです。今回は、最後の三作の目次（簡略化）を紹介したいと思います。

千畳原史話

昭和三十九年八月発行
（創立八十周年記念出版）

校地、この界隈、正門、並木、校庭の桜、関中（西高）と仲良しになるように努めた、バックネット、甲子園出場、戦時中の野球、戦直後の野球、甲子園に出場したある夏、野球選手、野球監督、近郷中学野球大会、野球優勝の喜び、野球後援会、鉄筋校舎、下商火災、建築費（1・2・3）、斉藤先生銅像、斉藤先生同窓会葬、斉藤奨学金、楠本奨学金、篠部先生、藤井校長、藤沢先生、ニックネーム、外人代理教師、入学試験、学業の優れた、教練、兵器の始末、ある年の修学旅行、下商新聞、経済調査（1・2・3・4）、保健室、定時制を設けた、定時制を始めた頃、定時制の経営に努めた、米谷先生、女子部設置、女子部創設の頃、女子部を廃してまたおいた、下関女子商業学校、購買部、吉田侃一先生、控所、グライダー格納庫、武道場、図書館、図書館新築、図書館経営に努めた、梵書、万古休典、若鶴先生、プール、講堂、扁額（1・2）、校名、下商創立のころの下関、創立の頃の下商、校章、校章の改められかけた、校旗、校歌、佐佐木信綱先生（1・2・3）、佐佐木信綱先生訪問、上真行先生、信時潔先生、竹中先生、模擬実践、記念事業、七十年史刊行、鹿商と下商との間、勤労動員、空襲、高校統合、卒業回数、同窓会、同窓会員、同窓会総会、同窓会館、同窓バッジ、ホーム別懇話会、学界に進んだ同窓生、同窓会の著書、PTA、下商教育後援会、創立八十周年

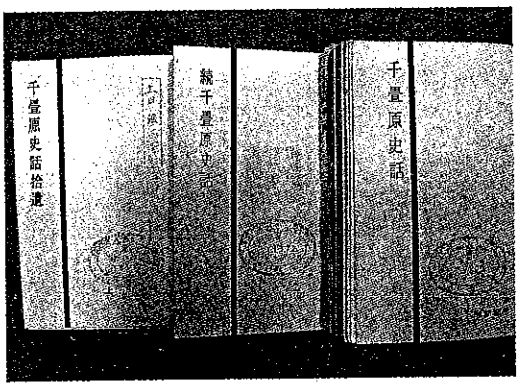
続千畳原史話

昭和四十二年十二月五日発行

千畳原、日本で一番古い商業学校、下商苦難の一こま、下商はなぜ市立か、修業年限、校章はいつ定められたか、制服の変遷、御真影、教育勅語、寄宿舎、映画の厳禁、落第が多かった、ローラーを椋野越えで運んだ、戦時中の女生徒、戦傷者収容所、原爆投下のゲリラ戦講習、「伯林会議」と下商、そろばん、黄金時代の庭球部、終戦後の庭球部、排球（バレーボール）部、下商の同窓地図、同窓生の著書（補遺）、同窓会誌、一新会、昭四会、昭五会、昭六会、八昭会、九昭会、十和会、五十会、心のふるさと、十三会、七寿会、箒を逆さまに立てる、国学者　福井正満、村田謙造先生、和田恒輔さん、西島博士とドイツ語、垢木さんの名刺、田中喜助君、中道英雄君、奥さんに惚れる、田中俵作先生、藤井鶴松先生、高野清治先生を悼む、荒木兵一先生、大段一美先生、米田泰雄先生、米田先生と下商新聞、中川力先生、Y先生、下商に甍をおいて来た、旧師の横顔、同窓寸描

千畳原史話拾遺

昭和四十八年十月十八日発行

下商の創立、下関になぜ早く商業学校ができたか、創立委員の人たち、中村英吉初代校長、創立当時の校舎、校地のうつりかわり、創立当時の学科、創立当時の教科書、校章、商業学校・高等商業学校・商科大学、成績評価の変遷、成績発表のうつりかわり、授業料の変遷、下商ストライキ小史、大津事件と下商、山口高商（山口大学経済学部）と下商、ドンと下商、扁額（がく）のことかれこれ、正志、講堂の壁、人事交流、職員住宅、戦闘機「下商号」、空襲を受けた下商、学徒動員、下商最初の修学旅行、下商生一行六十年前鹿商を訪う、短艇部略史、校友会誌、下商新聞創刊二十周年、下商音楽部、校友会復活の記、下商同窓地図補稿、同窓生の著書（補遺）、至楽、下関の神前結婚第一号は下商卒業生、和田恒輔さんの下商時代、村田簿記学校、浜田良祐元小倉市長、コーランを日本語訳に完成した三田了一さん、西嶋弥太郎さん、西嶋法学博士、中島治郎君、榎本弘君、田中喜助君、森掬生画伯、佐野栄一君、菊一岩夫君、中村勉君、宮崎敏君、武濤智君、林三雄君、岡野勝治神父、女の先生、末拡園栄さん、哀誄集（坂本博君・山本徳一さん・福田弁三さん・小河内行衛さん・若鶴勉先生）

上田強先生は、下商七十年史を執筆され本校の様々な事をまとめられておられます。過去の本校の経緯等を知りたい場合は、まずはこれらの書籍を読まれることをお薦めします。普段は万古館二階の郷土資料室に保管されており、生徒の皆さんには貸出はできませんが、その場で図書館の先生にお願いしたら読むことは可能だと思います。きっと意外な事が次々に分かると思います。記録を残すことの大切さも改めて感じます。